「住んでよし」へボトムアップ拠点に

「世界一」の東京を支える1300万人の東京都民。その日常生活を〝我が町〟レベルで支えるのは商店街だ。店主と住民の〝顔の見える〟関係性づくりや、防災・防犯、高齢者や子育て支援などの活動拠点として、地域経済・コミュニティ双方の活性化に寄与していく――。市民の声を束ねて行政と協働しながら、五輪後も見据えた街づくりへのボトムアップ拠点となることは、商店街のひとつのミッション＝使命と言えそうだ。

商店街は備蓄拠点
三多摩6商連でキャンペーン　防災を〝見える化〟

町田市商連主催「見える防災クイズ」にたくさんの親子連れが挑む

「災害のときに必要なものを蓄えておく場所は？――答えは、『家庭』と『商店街のお店』。商店街は食糧などの備蓄の役割も果たしているんですよ」――。昨年12月7日に町田シバヒロで開催された「見える防災クイズ&ゲーム」。ステージには町田市商店会連合会のマスコット「サルビアン」も登場したほか、来場者にはオリジナル防災手拭いや買い物にも使えるトートバッグ、商店街の防災面の役割をPRする「見える防災ブック」等も配布。同冊子にクイズの答えが記されているとあって、たくさんの親子連れが防災への備えや心構え、そして商店街の防災面での役割を楽しく学習する機会となった。

このクイズ&ゲーム企画は、町田市商連（林伸光会長）主催「〝見える防災〟イベントinまちだ イルミネーションパーク2014」のステージショーの一環だ。これは「みなさーん!!防災してますか?」との統一キャッチフレーズで三多摩商店街連合会（深沢靖彦会長＝八王子市商店会連合会会長）が、昨年11月から今年2月にかけて八王子市・立川市・武蔵野市・青梅市・町田市・府中市の6市商連各所で実施している〝見える防災〟プロジェクト」の、町田市商連主催イベントとの位置づけ。

オープニングセレモニーで主催者あいさつに立った林会長は、「商店街の地域貢献イベントとして、家族で楽しく防災意識を高めるきっかけにしてほしい」と呼びかけ。会場では町田消防署の協力で、はしご車への乗車や起震車体験企画、煙体験ハウス、消防服を着ての記念撮影など各種コーナーも提供。ステージでは地元フットサルチーム「ペスカドーラ町田」専属チアパフォーマンスや、「U字工事」の漫才、烈車戦隊トッキュウジャーのショーなども行われて、集まった子どもたちが熱い声援を送った。

三多摩商連が傘下6市商連共同で、東京都広域支援型商店街事業の支援を受けて連携プロジェクトを実施するのは今年で3カ年目。冊子や各種ノベルティ制作を共同化する一方で、各駅前や通り沿い、公園等でのノベルティ配布、イベント展開などでは市商連ごとに地元へ呼びかけ。連合会としてのスケールを活かしつつ、個々の地元市民へのPRを効果的に進めている。

加えてスポーツ、防犯、そして今回の防災と毎年公共性の高いテーマの下で3年間続けることで、「企画・運営を通じて、商店街が地元町会や消防・警察との連携を強め、また6市商連の協力体制を高める契機ともなっている」（深沢会長）との成果だ。

店主の〝技〟、一括PR
練馬区商連まちゼミ　受講者9割が「満足」

反省会では参加店同士がノウハウを共有化

多様な業種・業態が集積する商店街の、各店主が持つプロの技やノウハウ、そして対面性ゆえの信頼感・相談機能は、地元生活者にとっては頼れる〝地域資源〟でもある。そんな強みを地元へ一括的にPRしようと、昨年スタートしたのが練馬区商店街連合会（篠利雄会長）主催「まちゼミねりま」だ。

今回は区商連若手からなる練馬商人会（尾方英士代表）の企画・運営により、昨年10月から11月にかけて約1カ月間実施。昨年11月25日には、同事業を支援している岡崎まちゼミの会代表の松井洋一郎氏を迎えて反省会が行われた。

集計結果報告によると、参加数は55店舗、381名の受講者を得ており、参加者のコメントでは「入りづらかった店の良さを改めて感じることができた」「商店街で買い物をしたい」など、9割が「満足もしくは大満足」と回答するなどおおむね好評。

参加店主相互の取り組みの報告や意見交換では、時間配分での苦労や講座の定員設定に失敗したなど、初回ゆえの反省の声が寄せられた一方、「参加希望を断るほどの人気で、やる気につながった」「改めて自らの業種に関連する本を買い込んで勉強した」などモチベーションアップにつながったとの感想も。さらに、講座の実施風景が来店客や店の外から見えるようにすることによる店への集客効果、商店街主催でこその新規客からの講座・店への安心感向上なども挙げられた。

今後の課題としては、新聞折込みチラシだけの告知では反応がなかった店もあり、松井氏からは口コミの活用や店舗同士の顧客共有化・街全体の回遊性向上などを工夫するべきとの助言も。さらに、受講者へのアフターフォローとしてメールでの情報提供や試飲会案内を行ったとの報告や、次回のまちゼミへ向けて子ども限定の講座企画案も挙がるなど、本格実施へ向けて活発な議論が展開される場となった。

買い物ツアーや〝モデル〟へ演出
板橋区商連女性部　高齢者支援事業

60～80代の買い物客モデルが、プロのアドバイスで華麗に変身

地元商店街としてハード整備面だけでなく、「心のバリアフリー」をめざそう――。そんなキャッチフレーズで15年ほど前から、地元高齢者を対象とした各種支援事業やボランティア活動に取り組んできたのが板橋区商店街連合会女性部（岩渕紀子部長）だ。車イスの高齢者らに付き添ってサポートする「商店街買い物支援ツアー」、地元ナーシングホームへ出向いてのフラダンス・ショーや各種講習会、同施設内でのコーヒー提供サービスなどを継続的に実施中。なかでも、毎回約250名が集まり地元高齢者に人気なのが、高齢者自身が〝モデル〟となってのステージショー「元気で明るい〝いたばし〟」だ。長年の実績を受けて一昨年からは、区商連本体の事業として実施されている。

同ステージショーは昨年11月4日に8回目を迎え、「歳を重ねてもなお美しく！光輝（こうき）高齢者になります…」ファッションは若い人たちだけのものじゃない」との呼びかけで、第1部では地元の60代～80代のシニアの方々がモデルとなってのステージショーを実施。プロの美容師によるヘアー・チェンジやファッション・アドバイスで美しく〝変身〟して、ステージおよび会場内を練り歩くモデルらに、観客からは大きな拍手と歓声がわき起こった。

続く第2部では、地元シニアの方々がステージに立っての「あなたがスター」。フラダンスや歌唱など多数の地元チームが登場して、最後は来場者全員での炭坑節など、楽しいひとときを提供した。

コラボ商品や植栽
永福町（振）夢プロジェクト
産学官民連携で協議会

「永福町をもっと元気で楽しい町に」――。そんなビジョンの下、地元NPOや市民、事業者、学校機関などと広く連携して、地域課題解決や街ブランド向上に取り組んでいるのが杉並区の永福町商店街振興組合（中島安次理事長）だ。15年前の駅舎改修工事を機とした商店街通りへの植栽「花いっぱい運動」が、地元産学官民連携の「永福町夢プロジェクト協議会」へと発展。各種イベントの共同実施をはじめ一店逸品や街ブランド開発、地元小学校跡地の活用策提案などを連携して推進している。

さらに昨年10月26日の商店街主催「永福町オータムフェスティバル」で新たに登場したのが、地元食品関連企業とのコラボ商品「プレミアム永福バーガー」だ。これは商店街連携先の信州（安曇野）のスモークサーモンと地元ベーカリー自慢のパンを使用したもの。1個500円・限定200個にて販売したところ、あっという間に売り切れとなる人気となった。

「永福バーガー」は一昨年始めて企画したもので、その商品開発での協力を機にベーカリーが商店街へ新規出店。加えて今年は新たに地元ケンコーマヨネース㈱にも参画を仰ぎ、商店街とともに試作・試食を何度も重ねた。「街の名を掲げたブランドとして恥ずかしくないクオリティで」（中島理事長）との街への思いを、地元企業と街・店が共有してこその〝プレミアム〟バージョンとして実現している。

現在、協議会として推進しているのが、商店街通り先の小学校跡地一部を、高齢者から子どもまで楽しめる拠点として整備しようとの企画。地域内での合意形成や行政への働きかけも始めており、「商店街だけでなく協議会での地域の総意とすることにより、より深く街づくりに関わっていける」と中島理事長。長年地道に培ってきた地域からの信頼感と連携体制は、商店街が地域のボトムアップ拠点へと進化するカギと言えそうだ。

地元企業とのコラボで永福バーガー

商店街カルテ

清瀬南口商店街振興組合（清瀬市）

賑わいと優しさあふれる ふれあい通り

中小企業診断士　小高　正芳

商店街の早朝晴れた秋の空のもと駅前付近から南の方向を望む

東京の副都心「池袋」から西に向かって西武池袋線を利用して25分ほどで「清瀬」駅につきます。清瀬は結核医療と病院のまちというイメージが一般に強いと考えられますが、清瀬南口商店街は、その清瀬駅南口から南の方向に全長400㍍にわたって展開しております。

■商店街の概況

清瀬南口商店街振興組合には約140店が加盟しております。

清瀬南口商店街は、昭和55年7月当時115店の会員数で「南口商店会」と呼ばれておりました。それから34年経過しておりますが、商店街の形状そのものはほとんど変わっておりません。しかしながら、各商店の業種などについては時間の経過とともにかなりの変化がみられます。加盟店数は34年の間に約20％増加しておりますので、発展の方向にあるといえます。

現状の清瀬南口商店街は、小売店では最寄品をはじめ買回り品を取り扱う店舗が随所に配置されていて、利用客側からは便利この上ないというのが実感です。また、それらの物販店に加えて飲食店も中華や和食・洋食のほか居酒屋など酒類を提供する店が数多くみられ、便利さだけでなく楽しさも演出しています。そのほかサービス業では理美容店のほか整体やリフレクソロジーの店もかなり多く揃っています。

メインストリートはカラー舗装で、両側に側溝が設けられています。雨天時に雨水が中央部分の車道や歩道にたまらないような工夫されています。中央部分をやや高めにし、側溝に向けて緩やかな傾斜で雨水が流れるように設計されています。

■商店街の活動

清瀬南口商店街は、来街者に親しまれ愛されています。これは、この商店街が気取ることなく、街を訪れる人たちにフレンドリーな態度で接していることによるものです。

清瀬南口商店街を訪れる人たちの気持ちを「ほっ」とさせ、普段着のままの買い物を楽しむことができる点で、日常的な便利さとともに快適さを提供しているといえるでしょう。

商店街活動も活発で、平成26年8月には「ふれあいロード夏祭り」が8月2日（土曜日）と3日（日）の両日にわたって「清瀬駅南口・ふれあいど～り」で開催されました。午後2時から9時過ぎまでで、2日は子ども山車をはじめ清瀬高校吹奏楽部、阿波踊り（高円寺全13連）および佐東明美歌謡ショーほかが催されました。3日は神輿をはじめ横浜中華学校の獅子舞、創価学会富士鼓笛隊（80人）および斉藤かず・紅晴美歌謡ショーなどで会場が盛り上がりました。

10月には「秋のふれあい祭り」が10月26日（日曜日）午前10時から午後7時にかけて催されました。内容は野菜・果物・雑貨・塩干し物・食品の格安販売、フリーマーケット・模擬店などが出たほか、阿波踊り（高円寺から三連）、歌謡ショーなどが催されました。

■今後に向けて

清瀬南口商店街は今後に向けて発展する気配が大いに見えます。

最近の事例で見ますと、数年前に開店した靴の修理店が事情のため残念ながらクローズいたしましたが、そのあと、同じ場所に比較的に短期間でカフェの店が開店（平成26年12月）の運びになりました。

この例のように、閉店した場所に業種の違いがあっても、いち早く別の店が比較的早い時期に出店するかどうかということが繁栄か衰退かの分かれ目になると考えられます。

最近になって、商店街の南端あたりに気軽にお茶やコーヒーを気軽にお楽しめる比較的に小さめの喫茶店が相次いで出店していることが目立ちます。

商店街の中のお店で、ゆっくりできる場所を提供することは商店街全体の価値を高める役割を担うことにつながりますし、商店街全体の集客上も有利なことこの上ないものとなりますので大きなプラス要因になるものと考えられます。

清瀬南口商店街はこうしたことを契機に今後さらに発展することが約束されているような雰囲気が漂っております。今後、来街者をより一層増加させる方策が課題といえるでしょう。

専門家チームが商店街の活性化やお店の経営改善をお手伝いします！

商店街パワーアップ作戦
(専門家チームの派遣) のご案内

こんなお悩みありませんか
●個店の売り上げに悩んでいる
●商店街でのイベントがマンネリ化している
●ITを活用したいがどうしていいかわからない

東京都内の商店街・商店に対し、実務に明るい専門家が
実践的・具体的にアドバイスします。しかも！費用は無料です。

パワーアップ作戦の流れ
商店街
組合・任意団体
商　店
①お申込み
②事前打合わせ
③日程調整・専門家チームの編成
④専門家チームによる支援の実施

お申込み・問い合わせは下記まで
(公財)東京都中小企業振興公社　新事業創出課
TEL:03－3251－9367
FAX:03－3251－9372
E-mail:shonin@tokyo-kosha.or.jp

公益財団法人 東京都中小企業振興公社　東京都産業労働局　※商店街パワーアップ作戦は東京都から委託を受け、(公財)東京都中小企業振興公社が実施しています